

「学力」のとらえ方が変わります

(新学習指導要領について①)

少路だより 2019 年 6 月号

令和2年度(2020年度)より小学校新学習指導要領が全面実施となります。学力のとらえ方が変わりますので、少し紹介します。

これから先の未来は、大人も子どもも先行き不透明な時代を生きることになります。少子高齢化による労働力不足、インターネットや人工知能(AI)の技術の高度化、経済・文化・環境などすべての分野でのグローバル化など、社会のあり方や世の中のしくみが予想を超えたスピードで変わっていきます。そして、未来は「予測困難」であると言えます。子どもたちがこのような時代を生き抜いていくためには、**求められる「学力」**も変わってきます。

新学習指導要領では、そのような新しい時代の子どもたちに必要な力は、「学力の3要素」として次のように定義されています。①「何を知っているか、何ができるか」(**知識・技能**)、②「知っていること・できることをどう使うか」(**思考力・判断力・表現力**)、③「どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか」(**学びに向かう力や人間性等**)。

子どもたちは、将来、これまでに出会ったことのない場面や未知の課題に直面することもあるかもしれません。解決法がすぐには見つからないそうした場面においても、多様な人びとと協働して解決できる力を子どもたちに身につけさせたいと考えていることが表れています。学習指導要領の改訂、大学入試改革はこのような学力観のもと進められています。

主体的・対話的で深い学び

(新学習指導要領について②)

少路だより 2019 年 7 月号

学習指導要領は、ほぼ10年ごとに改訂されてきました。そのつど10年先の世の中を予測していました。ところが、今回の学習指導要領は、世の中が急速に変化し「予測困難」な時代に入っていくとしています。これからの変化の激しい時代を生きる子どもたちが、社会の中で活躍していけるよう今回の改訂では、次の3つの柱を掲げています。

- ① **生きて働く「知識・技能」の習得**
- ② **未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成**
- ③ **学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養**

このような力を身につけていくための学び方として、「**主体的・対話的で深い学び**」がキーワードとなっています。

主体的 : 自分から進んで学んでいく“主体的な学び”等

対話的 : 子ども同士が話し合いながら問題を解決していく“対話的な学び”等

深い学び : これまで使ってきた様々な知識や技能を積極的に活用しながら自分の考えをアウトプットして深く理解していく“深い学び”等

知識を身につけるだけの学びではなく、知識を活用し問題を解決したり、話し合いの中から新たな知恵を生み出したりするような、実社会で活用できる力が加速度的に求められています。

本校の研究テーマも「**わかった・できた・学び合おう～主体的・対話的で深い学びの授業を目指して～**」とし、算数を中心に研究を進めています。

子どもたちが学ぶ教科は？

(新学習指導要領について③)

少路だより 2019 年 11 月号

太字が小学校の新設・変更部分です。

国語、社会（3～6年）、算数、理科（3～6年）、生活（1,2年）、音楽、図画工作、家庭（5,6年）、体育、**外国語（5,6年）、特別の教科 道徳、**
外国語活動（**3,4年**）、総合的な学習の時間（3～6年）、特別活動

5、6年の「外国語活動」が**教科「外国語」**となり年間70時間（週2時間）実施されること、**3、4年に「外国語活動」**が年間35時間実施されることとなります。

「**特別の教科 道徳**」では、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ますための評価（記述式）を行います。特定の考え方を押し付けたり、評価を入試で使ったりしません。

子どもたちの「生きる力」を育むには

(新学習指導要領について④)

少路だより 2019 年 12 月号

子どもたちの「生きる力」を育むには、学校での学びを日常生活で活用したり、ご家庭での経験を学校生活に生かしたりすることが、とても大切です。お子さんが学校で学んだことについて、ご家庭で、ぜひ話してみてください。保護者の皆さまの働きかけが、子どもたちの「生きる力」を育む大きな原動力になります。保護者の働きかけがある子どもの学力は高いという傾向があります。例えば…

- 学校や友達のこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が多い。
- テレビ・ビデオ・DVDを見る時間などのルールを決めている。
- テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む）をする時間を限定している。
- 子どもに最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。
- 地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを重視している。

(平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究)

※文部科学省 新しい学習指導要領についてのリーフレット『生きる力 学びの、その先へ』より

OECD（経済協力開発機構）が行う国際的な学習到達度調査（PISA、ピザ）の 2018 年の結果が 12 月初めに発表されました。日本の「読解力」は前回調査に続き、低下傾向が示されました。文章から情報を探す問題や、考えが人に伝わるよう理由を示して説明する自由記述の問題で正答率が低くなりました。

従来 of 国語に求められる読解力は、物語や説明文などから筆者の言いたいことを理解するところがあります。それに対して、PISA の読解力は、いくつかの文章やグラフ、イラストなどを見て、わかることを読み取り、自分で考えを表現する力が問われます。

低下傾向については、インターネットなどの普及で自分の好きな情報ばかりを見ていたり、メールなどできちんと文章を書かない場面が増えたりしていることも原因の一つではないかと言われています。

基礎的な読解力を身に付けるためには、厚い本でなくても、うすいパンフレットや図鑑などでもよいので、できるだけたくさんの文章を読み、情報を頭に入れたら、外に出す（自分の言葉で言いかえる、説明する）ことが効果的だと言われています。



参考 文部科学省ホームページ

A blue rectangular graphic with four yellow birds in flight. The text is arranged around the birds.

子供の未来を支える皆さまと共有したい
新しい学習指導要領

生きる力 学びの、その先へ

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm